保管用
よくお読みください
保証書別途

取扱説明書

フルリクライニング車いす

RR60N(B) / RR70N(B)

● 目 次 ●

製品の特徴・使用目的	1
安全に関するご注意	2
1.同梱部品の確認	7
2.各部名称	8
3.ご使用になる前に	9
4.使用準備	11
5.リクライニングの方法	11
6.肘掛けの使用方法	12
7.ステップ板の使用方法	12
8.ブレーキの使用方法	13
9.段差乗り越え方法	13
10.ガススプリングの廃棄方法	14
11.保守・点検	15
12.お手入れの方法	17
13.保管についてのお願い	17
14.車いすの主な乗り方	18
15.仕様	20
16.製品記録	21
17.保証	22

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます
（http://www.kawamura-cycle.co.jp/product/manual.htm）。

※ご使用になる前に必ずお読みください。また、ご使用の際には必ず携帯していただき、必要なときにいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

KAWAMURA 株式会社カワムラサイクル

[製品の特徴・使用目的]

この商品は、リクライニング車いすです。

●背もたれが倒れ、リラックスできる設計です。
●体型・症状に合わせた車いすを選択してください。
●この商品は、一人乗り用です。

■介助用をご使用の場合

この車いすは、介助者が操作する車いすです。この車いすは、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がないリクライニング型の介助用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこのリクライニング型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、リクライニング型が使用に適さなくなることがあります。

安全に関するご注意

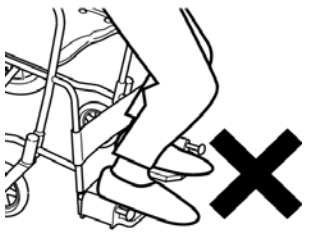
※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

[表示マークの説明]

※正しい取扱いに関する必要事項をシンボルマークで表示しています。

⚠ 警 告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
⚠ 注 意	取扱いを誤った場合、障害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
⊘ 禁 止	してはいけないことを示しています。
● 必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。

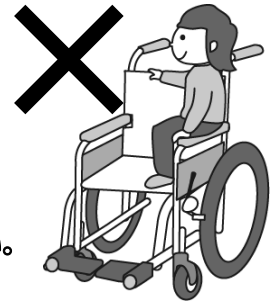
	⚠ 警 告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
⊘ 禁止	**●勝手に改造・分解しないでください。** 強度や耐久性が低下して危険です。また、事故になる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。 故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破断したり、加工した状態で使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。	
	●車いすに乗り降りの際は、決してステップ板の上に足を乗せないでください。 絶対にステップ板の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。	
	●車いすを火気に近付けないでください。 シート部が燃えたり、熱くなりプラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。	

⚠ 警 告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

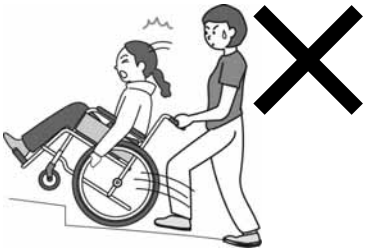
禁止

●座シート以外の部分に腰掛けないでください。
●介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。
●複数の人数で乗らないでください。
この車いすは一人用です。二人以上で乗ると破損･事故の原因になります。
●急な坂道(勾配４度以上)では使用しないでください。
●押手に寄りかかったり、歩行補助として使用しないでください。

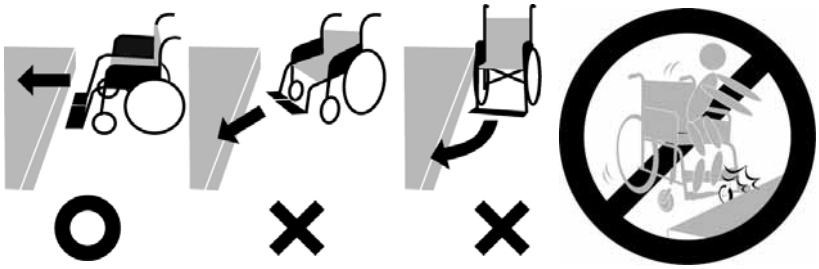


●本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。
事故の原因となります。調整が必要な場合はご購入の販売店にご相談ください。

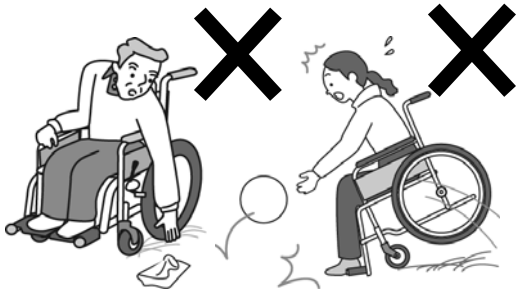
●大きな段差を無理に乗り越えようとしないでください。
●段差の前では一旦停止してティッピングレバーを利用して乗り越えてください。
決して勢いをつけて乗り越えないでください。大変危険です。また、フレーム及びキャスタ車輪等の損傷を受けます。



●発進するときや段差を乗り越えるときには、キャスタのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。
斜めに進入したり、キャスタタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャスタが破損して事故の原因となる恐れがあり大変危険です。



●車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください。
車いすが不安定になり危険です。
●車いすに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。
車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うと、車いすごと転倒し大変危険です。



●車いす以外の目的に使用しないでください。
物品運搬･踏み台などに使用しないでください。
車いすの上では立ち上がらないでください。

⚠ 警 告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

必ず守る

●車いすを持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけベースパイプをしっかり支えてください。

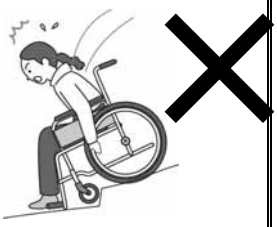
※背シート・肘当て・脚部を持たないでください。この箇所を持ち上げると、押手が車いすから外れるなど、大変危険です。

※利用者が乗ったまま持ち上げる場合は、シートベルトをしっかりと締め、３人以上で持ってしっかりと支えてください。利用者の身体の一部を持たないでください。

●道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。

●身体が前のめりにならないよう充分ご注意ください。

段差や凹凸などのある路面等を走行するときは、特にご注意ください。



●踏み切りの横断やエレベーターの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。

斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。

●坂道の上り下りや段差のある場所では、必ず介助者に支えてもらいましょう。

坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。

坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

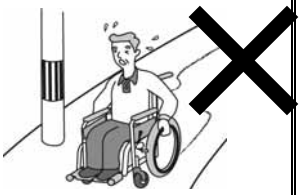
［上り坂］

［下り坂］

●傾斜地･坂道での走行は特にご注意ください。

・傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、スピードが出やすいなど大変危険です。

・車いすからずり落ちる、前へ倒れるなど、非常に不安定になり危険です。



●車いすの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助を行ってください。

●部品等が破損したり損傷がある場合は、すぐに部品を交換してください。

●次のような場所では走行を避けてください。

・交通量の多い道路　・砂利道　・凹凸のある道
・ぬかるみ　・雪道　・凍結路　・防止柵のない側溝や路肩付近など
・崖　・川土手　・海岸防波堤上　・その他危険な場所

⚠ 警 告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

必ず守る

●次のような場合は走行を避けてください。

・夜間　・雨天　・濃霧　・強風　・その他危険が予想される場合

夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。

雨天は路面が滑りやすくなり危険です。

●次のような場所では厳重な注意が必要です。

介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど注意しながらご使用ください。

・狭い道　・踏み切り　・横断歩道　・駅のホーム　・エレベーター

・車いす対応の動く歩道　・車いす対応の福祉車両

・その他危険が予想される場所

●身体が安定しない方は、シートベルトの着用をお勧めします。

段差などで不意に衝撃などを受けると身体が投げ出されることがあり危険です。また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまるなど危険です。

⚠ 注 意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

●車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。

フレームが歪んだり、破損の原因となります。

●ブレーキなどの操作レバーに荷物などを掛けないでください。

●小さな子供に使用させたり遊ばせたりしないでください

●急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。

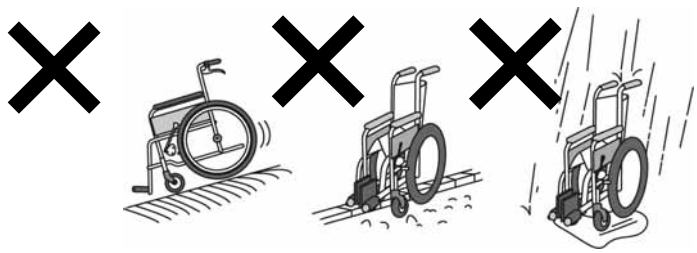
●足踏みブレーキのバーは作動方向以外に力を加えないでください。

また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

・車道に近いところ
・路面に段差や凸凹のあるところ
・海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
・ほこりの多い場所
・非常口、消火器、　火栓の前
・直射日光の当たる場所（車内も含む）
・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
・人通りのあるところ
・湿気の多いところ
・雨、風のあたる場所
・坂道
・暑い日や寒い日の戸外
・子供がいたずらをする恐れのある場所

事故やサビ・破損の原因になります。



●後輪の空気圧が少なかったり故障した状態で使用しないでください。

ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるなど、危険です。

●後輪の空気圧を適正に保ってください。

適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。(目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。空気圧が高すぎるとチューブが破裂する危険があります。

⚠ 注 意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

必ず守る

●ご使用前には各部を点検してください。

車いすは“動くもの”ですから、長時間のご使用等により劣化が生じます。

ご使用前の点検を励行し、異常が見つかったら直ちにご使用を中止してください。

●安定した姿勢で座ってください。

座面深くに座ってください。左右にかたよらずに座ってください。

また、介助者は、ご利用者が安定した姿勢で座っていることを確認してください。

●回転している車輪に指を挟み込まないように注意してください。

●車いすにバリなどがないかを確認してください。

衝突等により金属･樹脂部にバリ等が発生することがあります。ケガの原因となりますので、充分ご注意ください。

●認知症の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。

車いすのシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。

●介助者は、利用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。

利用者の身体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスタ及び地面、建物、通行者に触れたりはさまったりしないようご注意ください。

●靴を履かずに足をステップ板に乗せてご使用いただく場合は充分ご注意ください。

壁や柱で足をケガしたり、足がステップ板から落ちて骨折するなど、大変危険です。

●肘掛けに腕を乗せたまま、肘掛け高さ調整をしないでください。

●車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず２名以上の介助者が付き添ってください。

●最大体重を守ってご使用ください。

車いすに表示されている「使用者最大体重」は、積載物も含んだ重さです。

●ご利用者の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
※以上の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります。

ご確認ください

飛行機にご搭乗される場合

お客様の車いすをご旅行先へ持っていかれる場合は、事前に利用予定航空会社又は旅行代理店にご相談ください。

事前確認なしに空港へ行きますと、航空会社の確認業務に時間がかかり、ご希望の便に間に合わなかったり、せっかくの旅行を取りやめなくてはならなくなったりします。

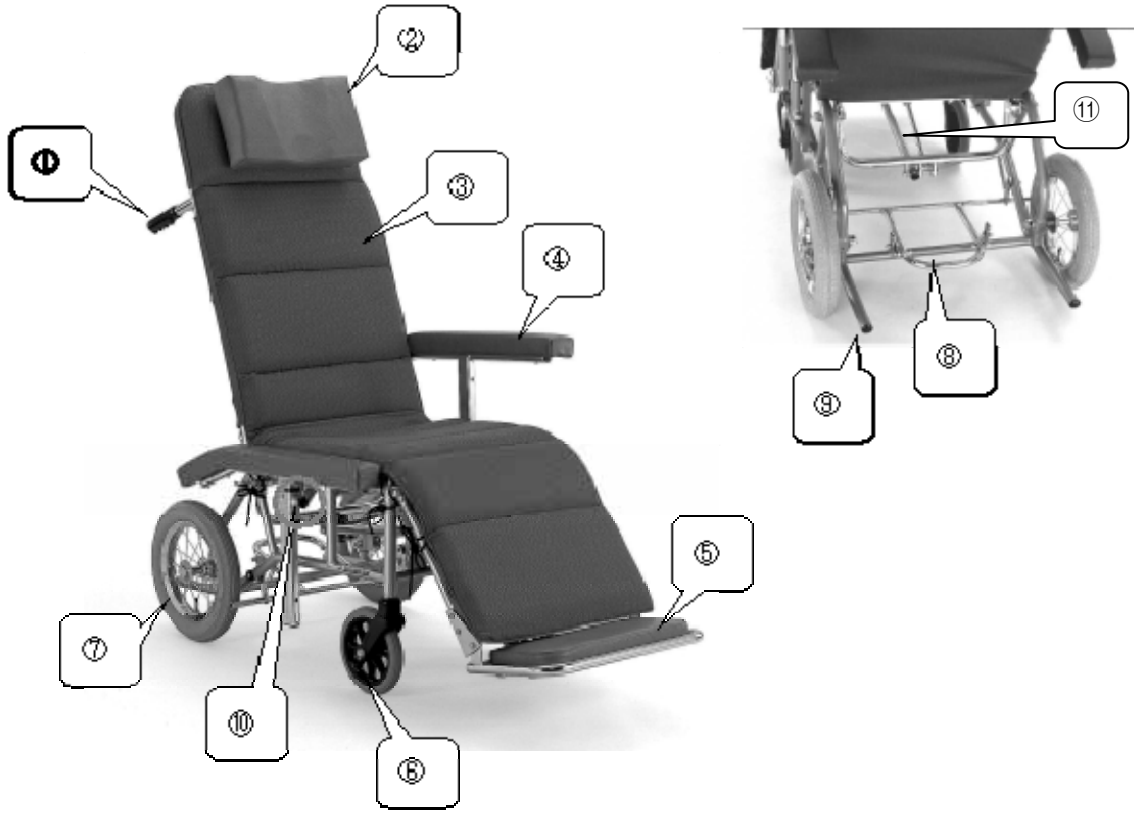
特に**六輪車、リクライニング車などガススプリング（ガスダンパー）を使用している車いす**は飛行機への搭載可否の判断に日数を要する場合があります。また、電動車いすや電動ユニット装着車いす及び特殊車いすについてもご希望の便によっては貨物室のスペース確保が出来ない場合があります。はやめの手続きでスムーズなご旅行をお楽しみください。

1.同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

- 取扱説明書　1式
- 保証書はがき　1枚
- 13mm スパナ　1個
- RR60/70 用背もたれ固定ノブ ル　2個

2.各部名称



①押手（手押しハンドルグリップ）	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
②枕	首が横に倒れにくい形になっています。
③背もたれ（バックサポート）	背部がよりかかる場所です。
④肘掛け（アームサポート）	高さを３段階で調節できます。（上下式）
⑤ステップ板（フットサポート）	足を置く場所です。
⑥キャスタ（前輪）	自在に方向転換できる小車輪です。
⑦後輪	主輪です。
⑧足踏みブレーキ	介助者が駐車ブレーキをかける際に踏みます。
⑨ティッピングレバー	段差を乗り越えるときなど、介助する方がキャスタを浮かすときに使います。
⑩肘掛け高さ調整スライドピン	肘掛けの高さを調節します。
⑪ガススプリング	リクライニング機能を作動させます。

3.ご使用になる前に

車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。
長期間使用を続けると、劣化が生じます。

★装着品の確認

- 背ベースシート、座ベースシート、脚部ベースシートは、しっかりと固定されていますか？
- クッション、枕は、しっかりと取付けられていますか？

★後輪の確認

- タイヤに空気が充分入っていますか？（タイヤを指で押しても容易にへこまないか）
- バルブが緩んでいませんか？
- タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
- タイヤの溝が充分残っていますか？変形していませんか？

★ブレーキの確認

- 駐車ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
- ブレーキをかけた状態で後輪が回転しませんか？

★肘掛け

- スムーズに（上下）作動できますか？
- しっかりと固定できますか？
- キズや亀裂等はありませんか？

★脚部

- スムーズにエレベーティング（上下）できますか？
- しっかりと固定できますか？
- キズや亀裂等はありませんか？

★全体的に

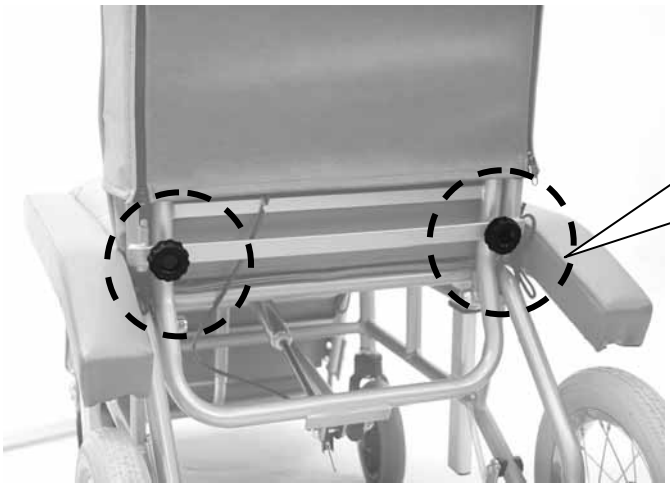
- ガタつきはありませんか？
- まっすぐに走りますか？
- 各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- 背もたれがしっかりと固定されていますか？
- クッション、枕が取り付けられていますか？

★介助者へ

- 長期間の使用や使用頻度によっては、ガススプリングやキャスタ車輪、脚部、肘掛け等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を励行してください。異常がある場合は、使用を中止してください。
- 次のような場所では必ず介助する人が付き添い、利用者の身体を支えるなど転倒防止に努めてください。
    - 急な坂道
    - 凹凸や段差のある場所
    - 踏み切りの横断、エレベーターの乗り降りなどの溝のある場所
    - その他危険が考えられる場所
- 車いすに載って介助しないでください。
- 利用者の身体の一部及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
- 利用者の身体の一部及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- 重い荷物を車いすに載せたり、押手に提げたりしないでください。

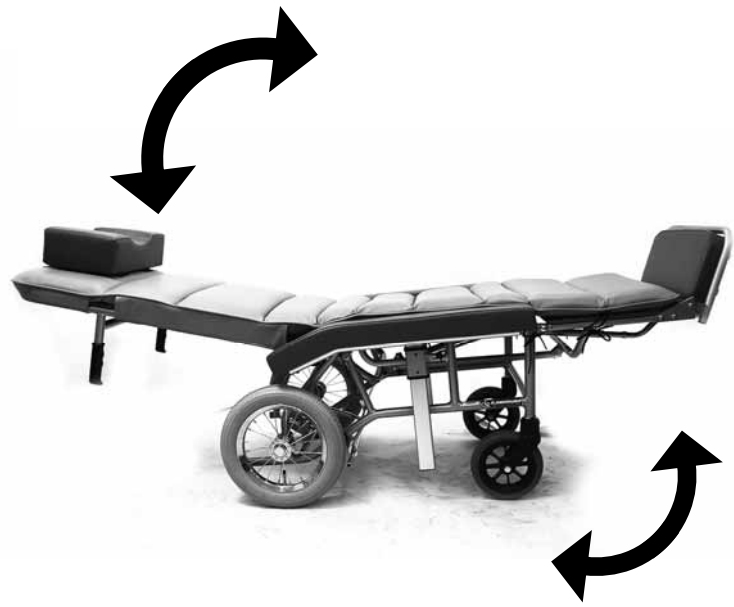
4.使用準備

背もたれをフレームに固定してください。



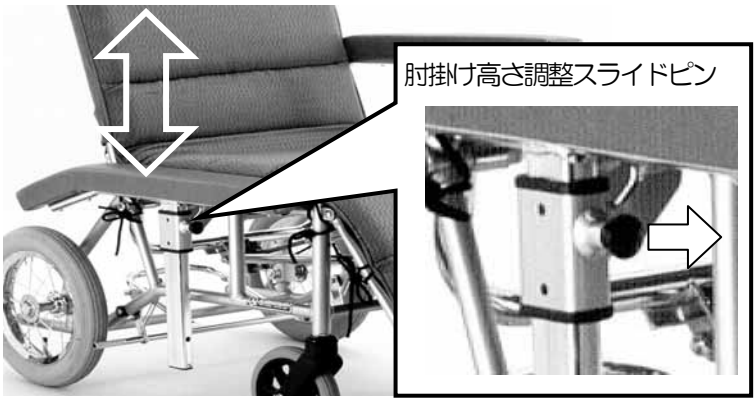
背もたれを立てた後、RR60/70 用背もたれ固定ノブボルトを取り付け、確実に締めこんでください。

5.リクライニングの方法



背もたれを倒したり起こしたりすると、脚部も連動して上下します。
背もたれを倒す場合は、レバーを握って、下方向に押すようにして力を加えます。
背もたれを起こす場合は、レバーを握って上方向に引き上げるようにして力を加えます。

6.肘掛けの使用方法



肘掛け高さを、
☆22cm
☆24cm
☆26cm
の3段階で調整できます。

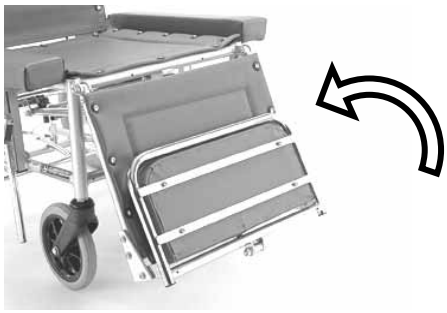
上図のように下まで下ろすこともできます。（移乗の際に便利です。）
調整するときは、肘掛け高さ調整ノブを引いて肘掛けを上下させます

⚠ 注 意

●肘掛けを調整したあとは、肘掛けの高さ調整スライドピンがしっかり固定されていることをご確認ください。

●肘掛けを降ろす際に肘掛けとシートの間で手をはさまないよう注意ください。

7.ステップ板の使用方法



乗り降りの際には、ステップ板を左図のように手で跳ね上げます。

⚠ 注 意

●車いすに乗り降りの際は、必ずステップを上に跳ね上げてください。

●絶対にステップの上に乗らないでください。
車いすごと転倒し、大変危険です。

8.ブレーキの使用方法

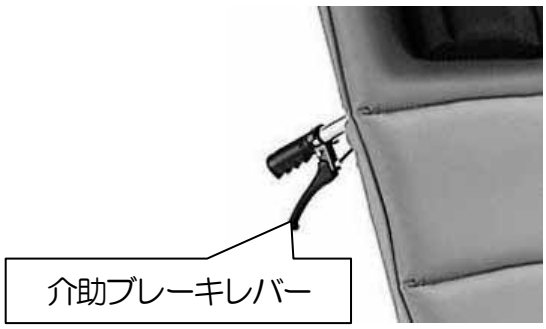
＜足踏みブレーキ（駐車ブレーキ）＞

足で踏むことにより駐車ブレーキがかかります。

⚠ 注 意

●車いすに乗り降りの際は、必ず足踏みブレーキをご使用ください。
車いすが動くと大変危険です。

＜介助ブレーキ＞



<介助ブレーキ付きタイプ
（RR60NB・RR70NB）をご使用の場合＞

左図のブレーキレバーを握ると、ブレーキがかかります。
離すと解除されます。

⚠ 警 告

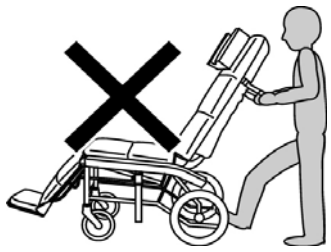
※一ヶ月に一度は安全点検を行ってください。

●ブレーキの効き目が強すぎたり弱すぎたりする場合は、ご使用を中止し販売店にご相談ください。
●ブレーキは必ず手で操作してください。足などで操作するとブレーキが破損します。
●ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形･破損する恐れがあります。

●坂道や傾斜地では駐車しないでください。坂道や傾斜地では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。（滑りやすい床面などでは駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。）

9.段差乗り越え方法

リクライニング車いすの場合は後方に転倒しにくい様に設計されています。押手とティッピングバーだけで持ち上げますと、車体に負荷がかかり破損の原因になります。段差を乗り越える際は車体前方を持ち上げてください。



10.ガススプリングの廃棄方法

廃却する際は、次の注意を守ってください。この部品は、窒素ガスが高圧で封入してあるため、ガスを抜かずに処理すると、爆発によりケガをすることがあります。

（注意事項）

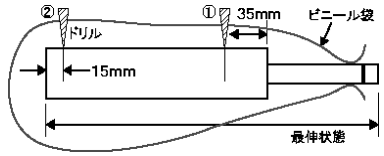
- 押しつぶさない。
- 切断しない。
- 図以外の場所に孔を開けない。
- 火に入れない。

（廃却の手順）

1.プッシュロッドを押し、最伸状態にする。

2.ビニール袋をかぶせ、その上から２～３㎜ドリルで①の孔をあけ、ガス・油を抜いたあと②の孔をあけてください。（必ず①②の手順を守ってください。）

3.ビニール袋を使用しない場合は、油や切粉が飛びますので充分ご注意ください。（この場合メガネをかけて作業してください）



左図の要領で孔をあけ、ガス抜きをしてから廃却してください。

⚠ 注 意

●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
●異常が見つかったらご使用を中止してください。

★ガススプリングの取り扱い上の注意

⚠ 注 意

●摺動部に注油は一切不要です。注油するとシールの耐久性をなくし油漏れの原因となります。
●衝撃を加えることは絶対に避けてください。油漏れ、作動不良、破損の原因になります。
●分解することは絶対に避けてください。高圧ガスが封入されていますので、分解すると非常に危険です。
●曲げ荷重の負担がかかりますと曲げ方向の剛性が少ないので取り付けの精度によりロッドが曲がり作動不良の原因となります。
●ピストンロッドおよびシリンダーに打痕をつけますとシールの寿命を縮めたり、作動不良の原因になります。
●周囲の気温があまり高いまたは低い場所でのご使用はご注意ください。-10℃～80℃の範囲内でご使用ください。
●万一、オイル漏れが発生した場合、ガススプリングの交換が必要になります。ご購入頂いた代理店にご連絡ください。

11.保守・点検

１ヶ月に一度は安全点検を行ってください!!

★タイヤに空気は充分入っていますか？

空気入タイヤをご使用の場合は、空気圧にご注意ください。
タイヤの性質上空気は自然と減っていきます。１ヶ月に１回は空気を入れてください。
適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。空気圧が低すぎると駆動が重くなり、またブレーキの効きが悪くなります。高すぎると破裂の原因となります。

［目安］タイヤを手で押してやや硬い程度(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。

【適正空気圧(参考)】

18～24in 一般：400kPa（減圧弁圧）

22in 軽量：700kPa（減圧弁圧）

16in 以下一般：300kPa（減圧弁圧）

［注意］弊社の車いすに使用しているバルブは「英式バルブ」ですので、空気圧は正確には測定できません。
英式バルブは空気が一方的に入るだけで、漏出させることができない構造になっているため、ポンプに内装型の圧力ゲージでも、 単体の圧力ゲージでも英式バルブの正確な空気圧測定はできません。

★タイヤの溝は充分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。また、タイヤやキャスタのひび割れにもご注意ください。

★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。充分ご確認の上、しっかりと締めてください。

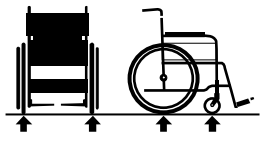
★ブレーキはしっかり効きますか？

タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。
空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。
もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★変な音がしませんか?

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。原因が不明な場合、修理不可能な場合はお買い上げの販売店までご連絡ください。

★四点接地していますか？



前輪二輪と中央輪が接地しているかご確認ください。
四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。
直ちにお買い上げの販売店までご連絡ください。

異常が見つかったらご使用を中止してください。

★まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。原因となっている箇所の修理・交換を行ってください。

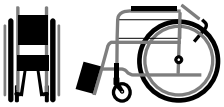
★シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

車いすは湿気に弱いので、雨にぬれる場所などに放置していたり、長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

★ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。ネジが緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。締めてもすぐに緩む、締まらないなどの不具合があれば、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

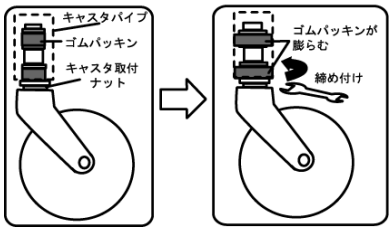
★きちんと折りたためますか？



折りたたみに異常がある場合、クロスの金具のネジの緩みや摺動部分の油切れが考えられます。ネジの締め付け、注油を行ってください。

★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか?緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。充分ご確認の上、しっかりと締めてください。



（出荷時には充分に締め付けてありますが、ご使用されている間に振動により緩む場合がありますので、定期的に点検してください。）
スパナでキャスタ取付ナットを締めると、ゴムパッキンが膨らみ、キャスタが固定されます。キャスタ取付ナットをしっかりと締めてください。締付が弱いとキャスタが外れる恐れがあります。

★ワイヤーは切れていませんか？

ブレーキワイヤー、リクライニングワイヤーは切れていませんか?安全のために、１年に１度定期的に交換してください。

★洗浄の際には、水、お湯または中性洗剤をご使用ください。

洗浄後は、充分に乾燥させてください。カビやサビの原因になります。

★リクライニング及びティルティングの操作が著しく悪くなっていませんか？

ガススプリングが劣化しているおそれがあります。すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

⚠ 注 意

●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
●異常が見つかったら、直ちにご使用を中止して販売店へご相談ください。

12.お手入れの方法

★金属部分（フレーム）

フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、自動車用のワックスをかけ、乾いた布で拭き取ってください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で充分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

★樹脂（プラスチック）部

樹脂部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

★クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。

＜汚れがひどいとき＞

- ●汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を用いてください。その後、乾燥させてください。
- ●しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- ●洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。
- ●クッション表面に面ファスナー（オス）が接触しないようにしてください。（クッション生地のほつれ、けばだちの原因となります。）

⚠ 注 意

- ●熱湯やオゾンで洗浄しないでください。故障・変質・変色の原因となります。
- ●絶対に背延長を取り外して使用しないでください。転倒の原因となります。
- ●中性洗剤以外を使用しないでください。変質・変色・傷みの原因となります。
- ●シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。変質・変色・傷みの原因となります。
- ●たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。傷みの原因となります。

13.保管についてのお願い　車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。

⚠ 注 意

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

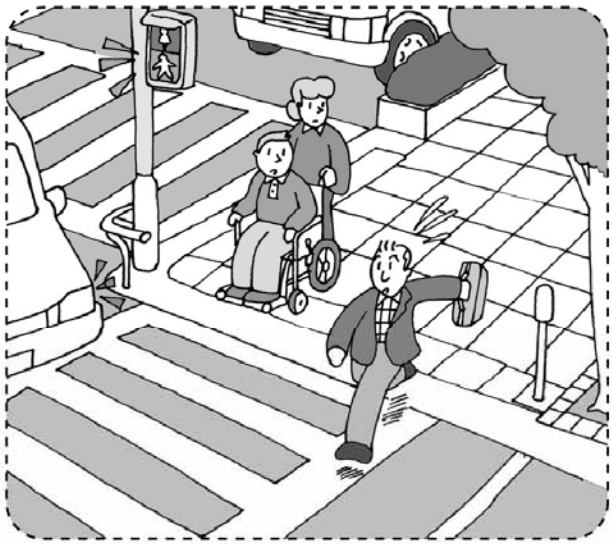
- ・車道に近いところ
- ・人通りのあるところ
- ・坂道
- ・路面に段差や凸凹のあるところ
- ・湿気の多いところ
- ・暑い日や寒い日の戸外
- ・海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
- ・雨、風のあたる場所
- ・ほこりの多い場所
- ・非常口、消火器、消火栓の前
- ・直射日光の当たる場所（車内も含む）
- ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
- ・子供がいたずらをする恐れのある場所

14.車いすの主な乗り方

⚠ 警 告

●タイヤの空気が充分入っているか確認しましょう。
●下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
●いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
●車道はできるだけ通らず、歩道や充分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。
歩行者としての交通ルールを守りましょう。



●「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
●信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、
走行を心掛けましょう。

⚠ 注 意

●車いすは乗り物ですから、定期点検が必要です。
長期の使用によって劣化が生じます。異常が発生した場合は、直ちに使用を中止してください。

★移乗　車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。
双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。

介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。

介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向ける。

ゆっくりと腰を下ろしてもらう。
※「いち、にの、さん」と声をかけながらおたがいに協力し合いましょう。

★外出（坂道）　車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”が基本です。

＜上り坂＞
押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。

＜下り坂＞
坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。
安全ベルトを必ずご利用ください。

15.仕　様

<各部寸法>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・記載の寸法や状態は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

寸法表

品名・名称			RR60・70N	RR60・70NB
座　幅		(mm)	440	
前座高さ		(mm)	440	
後座高さ		(mm)	405	
レッグ長さ		(mm)	370	
シート奥行き		(mm)	450	
背もたれ高さ		(mm)	835	
肘掛け高さ		(mm)	220・240・260	
全高		(mm)	1,210	
	折りたたみ	(mm)	670	
全幅		(mm)	580	585
	折りたたみ	(mm)	580	585
全長		(mm)	1160(最長 1,870)	
	折りたたみ	(mm)	1,010	
重量		(kg)	23.0	24.0

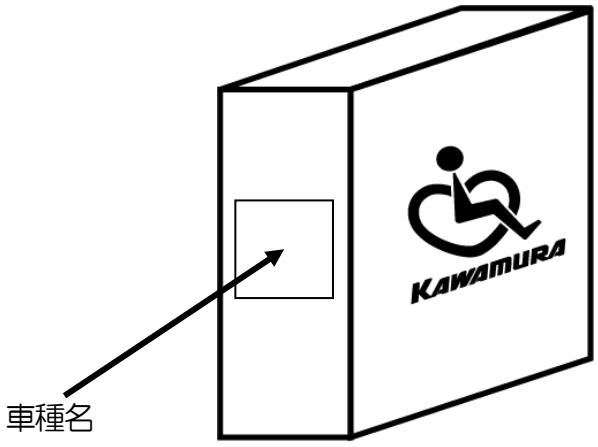
<各部仕様>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

16.製品記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、車種・製造月を記録しておいてください。

車　　種	
製造番号	
製 造 月	年　　月

＜シール貼付位置＞



17.保証

弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

★保証書

この商品には保証書を別途添付しております。返送用登録はがきに所定の事項を記入のうえ、商品購入後１ヶ月以内に当社へご返送ください。
保証期間はお買い上げ日より１年間です。

★保証期間後

お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★保証の適用除外となる場合

（ａ）ご使用による消耗品および取扱不注意による破損
　例）タイヤの磨耗およびパンク、シート、ステップ板の破損等
（ｂ）地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
（ｃ）お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
（ｄ）保全上の不備および弊社の特約販売店以外で行った修理や改造等による破損
（ｅ）弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
（ｆ）一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
（ｇ）製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
（ｈ）取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
（ｉ）取扱説明書に禁じられている使用方法によって生じた故障
（ｊ）ご購入後１ヶ月以内に登録されていない場合
（ｋ）日本国外でご使用の場合

★消耗部品

- キャスタ輪
- シート類
- 板ばね
- バンドブレーキカバー
- ワイヤー
- タイヤ
- チューブ
- 虫ゴム

★補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、５年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

★本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡しください。

※一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。

地球の環境保護のため、廃棄するときはそのまま放置しないで

各自治体の取り決めにしたがってください。

株式会社カワムラサイクル

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■仙台サービスセンター	〒982-0023	宮城県仙台市太白区鹿野 3-1-1 リエス鹿野 1 階	TEL022-746-9540
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野 2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町１-3-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒553-0004	大阪市福島区玉川 1-3-18 マックス大阪ビル 5 階	TEL06-6479-2055
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原１-18-3	TEL092-882-4722

■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場

本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に、一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。

2014.10 版